

計画の推進体制

本計画は、住民、自治会、ボランティア、NPOなどの関係団体、社会福祉協議会、行政がそれぞれの役割を担いながら、連携・協働して推進していきます。

住民

まずは住民一人ひとりが、自分の住んでいる地域に関心を持ち、地域社会の大切な一員であることを自覚して生活することが大切です。同じ地域に暮らす住民と交流し、顔の見える関係を築いていくことが第一歩です。

自治会

地域のなかには様々な人が暮らしています。そのなかには、誰かの手助けを必要としている人もいます。個人や家族の努力で解決できない生活課題に悩むとき、支え合える関係が隣近所や班、自治会です。人は誰しも、頼り頼られ「おたがいさま」のなかで生活をしています。困った時には「ちょっと助けて」と言い合える関係づくりを地域全体で進めていきましょう。

ボランティア

ボランティアの可能性は無限大です。「誰か（何か）のために何かしたい」という気持ちをぜひ行動に移してみましょう。地域の課題は多種多様で、行政サービスとしての提供には限界があります。充足されない課題に対して、それぞれができることを十分に生かして取り組んでいきましょう。

民生委員・児童委員、NPO、福祉施設などの関係機関

関係機関の強みは組織力です。一団体での活動は一つの方針に特化しているかもしれませんが、統一された方針のもと、一丸となって課題にあたることができます。これからの地域福祉を推進していくためにも、さらに横のつながりをネットワークとして構築し、相互の関わりから新たな化学反応を起こしていきましょう。

社会福祉協議会

社会福祉協議会は地域福祉の推進役として社会福祉法に位置付けられています。地域住民をはじめ関係機関、行政とともに誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくことができるまちづくりを進めることを目的としています。本計画においては、地域福祉活動計画の実行を通して、担い手を育て、住民の想いを形にし、つないで広げる地域づくりに取り組んでいきます。

行政

黒潮町は町民の福祉の向上を目指し、地域福祉のニーズ把握と各地域の特性に配慮した施策の推進に努めます。地域づくりの拠点となる「あったかふれあいセンター」の整備を進め、住民の主体的な取り組みを支援していきます。

また、心豊かに安心して在宅生活を送る体制整備のため、地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）を配置し、継続的な生活支援体制の構築に取り組めます。

第2期黒潮町地域福祉計画・黒潮町地域福祉活動計画【概要版】（平成29年3月）

黒潮町
〒789-1992 高知県幡多郡黒潮町入野 2019番地1
TEL:0880-43-2111(代表) FAX:0880-43-2788
E-mail:somu@town.kuroshio.lg.jp
黒潮町公式ホームページ <http://www.town.kuroshio.lg.jp/>

社会福祉法人 黒潮町社会福祉協議会
〒789-1931 高知県幡多郡黒潮町入野2017番地1
TEL:0880-43-2835 FAX:0880-43-0317
E-mail:k.syakyoo@iwk.ne.jp
社会福祉協議会公式ホームページ <http://kuroshiochosyakyoo.or.jp/>

第2期

黒潮町地域福祉計画 黒潮町地域福祉活動計画

概要版



はじめに

近年、少子高齢化の進行や核家族化など家族形態の変化などにより、家族の支え合いや近所づきあいが全国的に希薄化してきています。黒潮町においても、人口が減少するとともに地域行事が減少し住民同士が接する機会も少なくなってきました。

そこで、黒潮町では地域住民が主体となり住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていけるよう、地域住民、行政、社会福祉協議会、関係団体・事業所が連携、協働し課題解決に取り組むことを目指し、第2期黒潮町地域福祉計画・黒潮町地域福祉活動計画を策定することとしました。

計画の期間

計画の期間は、平成29年度から平成34年度までの6年間とします。

基本理念

子どもから高齢者まで誰もが笑顔で穏やかに過ごせるまちづくりを目指し、『おたがいさま』の心で彩る笑顔あふれるまちづくりを基本理念とします。

黒潮町
黒潮町社会福祉協議会

基本理念の実現に向け、次の3つの基本目標を設定します。

基本目標① 「人づくり」

少子高齢化が進行し、各地域において担い手の高齢化や後継者不足が深刻な問題となっています。地域福祉を推進するために、誰もが「おたがいさま」の意識を持ち、地域活動に参加・参画することが求められています。地域活動への参加促進の取り組みを強化し、リーダーの発掘やボランティア育成など地域を支える「人づくり」を進めます。

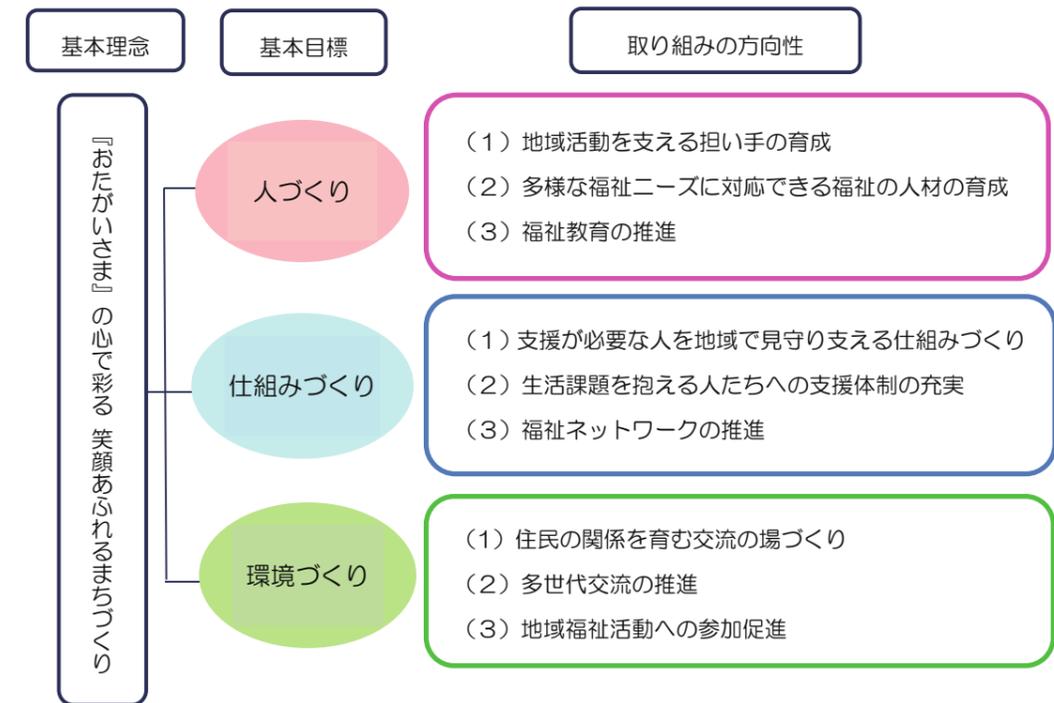
基本目標②「仕組みづくり」

近所付き合いの希薄化、地域行事の減少などにより横のつながりが少なくなってきました。また、災害時に支援を必要とする人や独居高齢者の増加により、情報共有や緊急時の助け合いなど今後地域ぐるみで見守りや支え合いが必要となっています。誰もが住み慣れた地域で支え合いながら暮らせるよう、関係組織間と連携しながら「仕組みづくり」を進めます。

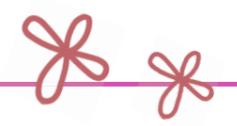
基本目標③「環境づくり」

人口減少や地域社会の変化に伴い、以前と比べ、近所の付き合いや地域活動への関わりが少なくなっています。ともに支え合う豊かな地域社会を築いていくためには、子どもから高齢者、障がいのある方など様々な人がふれあう機会づくりが求められています。気軽に参加できる世代間交流や地域での住民相互の交流の場をつくるなど「環境づくり」を進めます。

計 画 の 体 系



基本目標 ①



地域づくり（まちづくり）には活動の担い手が欠かせません。地域福祉への意識を高める啓発活動や養成講座、福祉教育を通して地域を支える人材を育成していく必要があります。

【取り組みの方向性】

① 地域活動を支える担い手の育成

- ☆ ゴミ拾いなど自分にできることから始める
- ☆ 趣味や特技を生かして、地域の活動に貢献する
- ☆ 特定の人に負担が掛からないよう地域の活動にする など



② 多様な福祉ニーズに対応できる福祉人材の育成

- ☆ ご近所の困りごとに敏感になる
- ☆ 手助けできる範囲であれば助け合う
- ☆ ゴミ出し支援などの生活課題に対して地域で取り組む など

③ 福祉教育の推進

- ☆ 福祉教育や体験学習を通じて、高齢者や障がい者への理解を深める
- ☆ 地域でのふれあいを通じて、思いやりの心を地域全体に広げていく
- ☆ 地域で貢献できる人材を育成するために、子どもの頃から意識付ける など

こんな人はぜひ参加してみよう！

- ・人や地域のためになることをしたい
- ・退職して時間ができたので、新しい活動してみたい
- ・趣味や特技を生かせる場所を探している
- ・子どもの心の成長や福祉学習に協力したい
- ・当事者や専門職として自らの経験や知識を伝えたい
- ・接遇研修等の一環として福祉教育を取り入れたい





仕組みづくり

困りごとを早期に発見したり、困っている人と支援できる人をつなぐような仕組みが必要です。また、同じ思いの人をつなげたり、情報をうまくつなぐことで活動の担い手がよりいっそう活躍することができます。

【取り組みの方向性】

① 支援が必要な人を地域で見守り支える仕組みづくり

- ☆ いつもと違う気になることがあれば、声をかけるよう心がける
- ☆ 高齢者世帯や障がい者世帯などを地域全体で見守る
- ☆ 日常生活の中で、変化や気づきがあれば民生委員や関係者につなぐ など

② 生活課題を抱える人たちへの支援体制の充実

- ☆ 気軽に相談できる人をつくるよう心がける
- ☆ 生活課題を抱える人がいたら、民生委員や相談機関につなげる
- ☆ 地域で声をかけあい、子育て世代から高齢の世代まで気軽に相談できる関係づくりに努める など

③ 福祉ネットワークの推進

- ☆ 団体として取り組める福祉活動（地域貢献）について考える
- ☆ 地域の中にあるさまざまな資源（商店や図書館、金融機関など）を知る
- ☆ 地域のカだけでは解決できないことは地域福祉ネットワークにつなげる など



こんなことから始めてみましょう！

- ・ ご近所さんに会ったら挨拶をする
- ・ 洗濯、消灯、新聞受け、雨戸の状況など生活の様子を気にかける
- ・ 長期の外出や入院はご近所にも知らせておく
- ・ 気になることがあれば、地域の区長や民生委員に伝える
- ・ 困りごとは一人で抱え込まず、相談窓口などに相談する



環境づくり

地域福祉を推進していくためには地域全体で「おたがいさま」の気持ちを育てていく必要があります。自分が暮らす地域をよくするための活動であるという共通認識のもと、住民相互の交流を活発にしていくことが大切です。

【取り組みの方向性】

① 住民の関係を育む交流の場づくり

- ☆ 地域の活動や行事に参加し、地域には様々な人がいることを知り福祉への理解を深める
- ☆ 役員だけでなく、なるべく多くの住民が参加できる機会を設ける など

② 多世代交流の推進

- ☆ 年齢を気にせず、誘い合ってさまざまなイベントに参加する
- ☆ 集会所や休校の校舎を活用し、世代間交流ができる集いの場をつくる
- ☆ 地域の子どもたちを家庭だけでなく地域全体で育てる など



③ 地域福祉活動への参加促進

- ☆ 地域の活動や行事に積極的に参加する
- ☆ 活動の楽しさや必要性をみんなに伝える
- ☆ 地域の活動や行事を回覧などで周知する など

こんなことから始めてみましょう！

- ・ 住んでいる地域を大切に、愛着心を育てる
- ・ 地域で行われている活動に関心を持ち、参加する
- ・ 地域がよくなるための提案をする
- ・ 自分が困っているときにどんな手助けをしてほしいか、また困っている人にどんな手助けができるか考える
- ・ 地域の一員として可能な限り活動に協力する



～ 私たちも参加します！！ ～

NPO あかつき

館内で読み聞かせがあり、子育て世代の交流の場となっています。また要請に応じて大型紙芝居の実演や貸出も行っています。毎年5月頃には除籍図書を有効活用しブックフェアを開催しています。

障がい者の相談窓口【黒潮町社会福祉協議会内】

障がい者等の相談に応じ、必要な助言や支援を行っています。障がい児をもつ家族の会への支援を行い、レクリエーションや座談会を開催しています。

NPO はらから

児童館運営を通して、放課後子ども教室や子どもの居場所づくりに取り組んでいます。また保護者が安心して働けるよう就労を支える役割も担っています。町内イベント協力するなど、地域活動への参加の入り口にもなっています。

かきせ川地域づくり協議会

馬荷地区、大方橋川地区、御坊畑地区の住民で構成され、かきせ川地域でコスモスまつりの開催、弘法大師ゆかりの馬荷温泉や七立栗（ななたてぐり）を活用した地域づくりに取り組んでいます。



～黒潮町特産物～

ケアラズカフェ スマイル【入野駅前（水～金曜日）】

誰でも気軽に利用でき、食事をしながら介護や育児などの話ができる場を提供しています。店内にはキッズスペースを設け、またベビーカーや車いすの人も入りやすいようバリアフリーにしています。

やすらぎの郷 【上川口浦集会所 週2日（火・金曜日）】

地域の人たちが気軽に集える場として婦人部の有志が集会所で喫茶を開催しています。昼食をとるだけでなく健康体操やトランプなどみんなで楽しく過ごしています。

黒潮若手の会

18歳から50歳までの方で組織し、Tシャツアート展などのイベントへ積極的に参加しています。子どもや若者の地域離れに着目し、子どもの農業体験や若者だからこそできる地域支援（生活支援）にも取り組んでいます。

であいの里 蛭川【モーニング 第1・第3日曜日・月曜日】

地域の拠点として旧校舎を活用。住民の憩いの場になるように、モーニングを提供し、みんなでおしゃべりを楽しんでもらっています。また、スポーツ合宿などの宿泊の受け入れや体験メニューを通じて、地域の魅力を発信しています。

佐賀北部活性化推進協議会

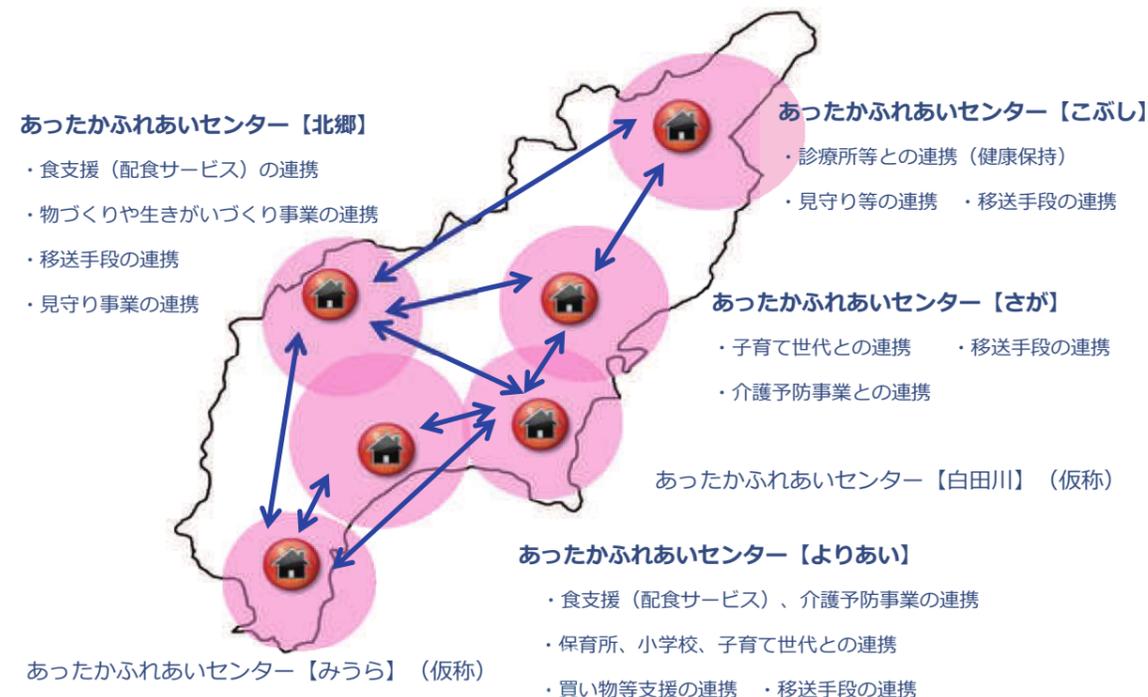
かつて品質日本一を誇った「若山楮」の産地でもあり、伝統産業の復活・伝承に取り組んでいます。現在は食部会、楮部会、柚子部会が組織され、集落活動センターとしてそれぞれが役割を分担しながら活動を続けています。

◆あったかふれあいセンターを活用した『黒潮町の小さな拠点』づくり

～誰もが住み慣れた地域で安心して生活することができる仕組みづくり～

あったかネットワークの構築

地域福祉に関するネットワークを構築し、地域住民の生活を支えることを目的に相互が連携しながら地域福祉の向上を目指します。



地域課題に柔軟に対応しながら地域とともに地域福祉を進めていくため、整備を進めている「あったかふれあいセンター」。今後、6箇所の拠点で福祉のネットワークを作っていきます。

《黒潮町あったかふれあいセンターの設置計画》

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
【設置済】 こぶし	【設置済】 北郷	【設置済】 よりあい	【設置済】 さが	建替え検討中 よりあい （仮称）	【計画】 みうら （仮称）	【計画】 白田川 （仮称）